

## くまびょう

107号

NEWS

くまびょう  
NEWS2006年  
5月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター  
(前 国立熊本病院)

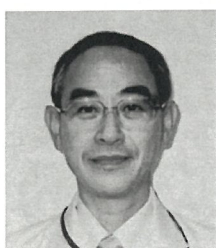
〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

## 新臨床研修医3期生をむかえて



研修部長

清川 哲志

必修化された研修制度が3年目を迎え、今年度は14名の新研修医を病院に迎えました。4月3日から7日間、病院業務についてのオリエンテーションを行い、新しい環境の中での研修の基礎知識を提供し、心構えを自覚してもらいました。オリエンテーションの中で、研修2年次から新研修医へのアドバイスを与える機会を持ちました。研修2年次はすっかり病院に溶け込み、ゆとりのある言葉で先輩への助言をしていました。思わず、「自分たちの1年前を思い出さないか。この1年で、どんなに自分が成長したのかが分かるね。」と声をかけていました。

これまでの取り組みの中で、1年次のプログラムは格段に充実してきたと考えます。現在の課題は2年次にどのように医師としての責任の重さを経験させ、それを担う臨床能力を身につけさせるかということにあります。スーパーローテーション形式の研

修では、幅広い症例を経験し臨床医としての視野を広げることができます。しかし、限られた期間の中で、患者さんとしっかり向き合い、時間をかけて信頼を築き、病気を克服していく喜びを味わうことはなかなか困難なことです。

このような状況の中で、2年次には地域医療研修ということで、臨床研修協力施設に登録していた医療機関に2週間の研修をお願いいたします。先生方が日常診療で、行っていらっしゃるホームドクターとしての役割を研修していきたいと考えています。患者に一番近い相談医という責任を果たしている先生方の臨床の現場を経験させていただき、これからの医師としての人格の涵養に繋がりたいと考えています。新しい患者さんに出会い、言葉を交わして信頼を得て、患者さんの問題解決のために知恵を絞る。よい結果を得たときとともに喜び、悪い結果の時には慰めあう。この経験があって初めて臨床医として、やり抜ける医師が育つと思います。

研修期間中に、技術や知識だけではなく、患者の立場に立つ心構えを教えていただければと思います。先生方のところに研修医がお世話になると思います。その際には、ご相談にあがりますので宜しくお願いいたします。

## 基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります



## 「シームレスなケアを目指して」

熊本ホームケア

クリニック

院長 井田 栄一



2005年10月、私は在宅ホスピス緩和ケアに専従したいと考え、熊本市神水に診療所を開設しました。診療の場を病棟から在宅として、ホスピス緩和ケアへの対峙を続けています。

1993年4月より社会福祉法人イエズスの聖心病院みこころホスピスに在籍しましたが、国立病院機構 熊本医療センターからは本当に多くの患者さん方をご紹介頂きました。心より御礼を申し上げます。

2006年4月、「在宅療養支援診療所」が診療報酬上の制度として新設されました。熊本ホームケア

クリニックも届出を行ないました。癌などの治り難い病気で「身体と心の痛み」を感じている患者さんを24時間体制で担当しています。

スタッフは10名で、医師2名、看護師3名、社会福祉士1名、事務2名、ボランティア2名です。在宅や外来を考えている方に対し、当診療所ではまず患者さんのご住所をお聞きしています。その理由は、20～30分以内いつでも往診ができ、体調に応じて外来から在宅へ移行が可能となる地域の担当が望ましいと考えるからです。

主に熊本市の東部地域を担当し、東端は九州高速自動車道、西端を平成大通りとし、南端は加勢川・木山川、北端を白川としています。また、基幹病院の外来通院中の患者さんが、当診療所の外来(月数回)または在宅(週数回)を併用することも可能です。ご不明な点は、ご遠慮なくお尋ね下さい。

E-mail: homecare@buz.bbiq.jp

国立病院機構熊本医療センターの皆さんにはこれからも多くの事柄で支えて頂くことと思います。入院が必要な在宅医療の患者さんには、開放型病床での診療に共に関わることができれば幸いです。入院継続を希望される患者さんには、ホスピス緩和ケア病棟などで療養ができるように橋渡しをしたいと模索しています。

「シームレスなホスピス緩和ケア」の確立が今後の展望です。そのためには、「診療所・基幹病院・ホスピス緩和ケア病棟」の密なコミュニケーションが要となると思います。医療の連携は、お互いの信頼関係に基づいて築かれると信じています。最後に、国立病院機構熊本医療センターの益々のご発展を祈念致します。

## 第8回 日本医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ

医療の安全と質 - 医療・介護提供体制の改革をめぐる -

本拠地を熊本においた全国学会です。クリティカルパス、医療安全、医療連携等、医療の現場における課題の研究、発表を行っています。現在事前参加登録受付中です。御参加を歓迎します。

会 長：国立病院機構横浜医療センター院長 高橋 俊毅  
 会 期：2006年6月16日(金)・17日(土)  
 会 場：横浜市みなとみらい  
 パシフィコ横浜・国立大ホール

### ◆基調講演

「学会の現況と今後の展望」

日本医療マネジメント学会理事長 宮崎 久義

### ◆会長講演

「医療安全の道険し」

国立病院機構横浜医療センター院長 高橋 俊毅

### ◆特別講演 1

医療改革の方向性について

厚生労働省医政局長 松谷有希雄

### ◆特別講演 2

情報化社会と医療-医療を受けるものの立場から

法政大学教授・ジャーナリスト 萩谷 順

### ◆招待講演 1

母に歌う子守唄-私の介護日誌-

東京家政大学・作家 落合 恵子

### ◆招待講演 2

医療を含む横浜市の改革 横浜市長 中田 宏

### ◆クリティカルパス総合セミナー

### ◆特別パネルディスカッション

### ◆シンポジウム

### ◆クリティカルパス展示

参加登録の方法など詳細は、ホームページをご覧ください。

第8回日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ：<http://www.8thjhm.org>

## 最近のトピックス

## 脳梗塞におけるtPA静注による血栓溶解療法



脳神経センター  
神経内科医長

田北 智裕

この度、2005年の10月より脳梗塞においてtPA (alteplase) 静注による血栓溶解療法が正式に認可されました。初めてこの治療法がアメリカで認可されたのが1996年6月であることを考えると、それから約10年が経過しており、待ちに待っていた治療法がやっと日本でも認められたということになります。

対象となるのは、発症時刻が明確で、発症後3時間以内に治療開始可能な、ある程度重症である脳梗塞患者です。方法としては、alteplase 0.6mg/kgを、10%急速静注、残りの90%を1時間で点滴静注を行います。

閉塞した血栓を溶解し血流を再開させ、まだ梗塞にまで至っていない脳組織 (penumbra) を助けるこの治療法は、最も理想的な方法のように思えます。しかし、脳組織は非常にデリケートであり、短い時間で壊死に陥るばかりでなく、一旦梗塞に陥った脳組織に血流を再開させることは出血の危険性を高め、さらに、血栓溶解薬を使用すれば凝固異常により出血を助長する結果となるのです。このように、血栓

溶解療法は、神経症状の劇的な改善が期待できるという反面、出血をきたし最悪の場合死に至る可能性も含んでいるため、大変判断が難しい治療法だといえます。この治療を行うにあたっては、適応症例を選択する上で厳しい基準があり、更に以下の施設基準が設けられています。

1. CTあるいはMRIが24時間可能である。
2. 急性期脳卒中に対する十分な知識と経験を持つ医師 (日本脳卒中学会専門医など) を中心とするストロークチーム及び設備 (SCUあるいはそれに準ずる病棟) を有する。
3. 脳外科的処置が迅速に行える。
4. 実施担当者が日本脳卒中学会の承認する本薬使用のための講習会を受講し、その証明を取得する。

これら4つの基準を当院はクリアしております。

当院で経験した症例を呈示します。症例は50歳代男性。来院時右片麻痺、全失語あり、画像所見より脳梗塞と診断し、発症後2時間30分でalteplase投与を開始しております。図1は投与前のMRAで左中大脳動脈の閉塞を認めておりますが、投与後の図2において閉塞部は再開通しております。症状も、右片麻痺はごく軽度に、失語も言語理解は良好になるまで改善しました。

このように、本治療は適切に症例を選び迅速に治療を行うことで、非常に良好な経過を得ることができます。いかに早く治療を開始できるかが重要になってきますので、脳梗塞が疑われる場合は可能な限り早急に御紹介頂ければと思います。

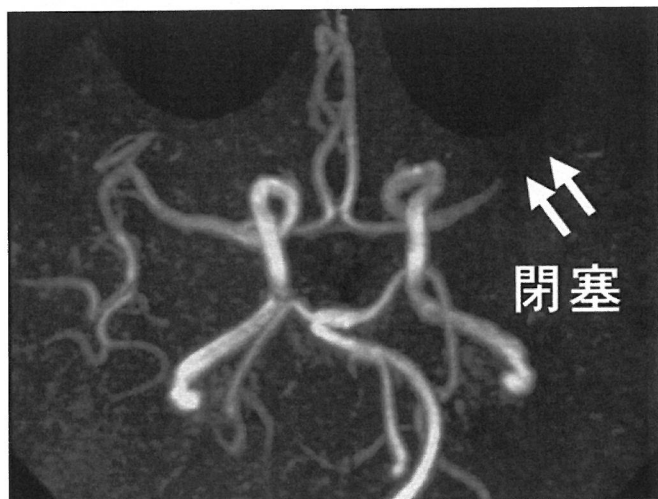


図1 alteplase 投与前

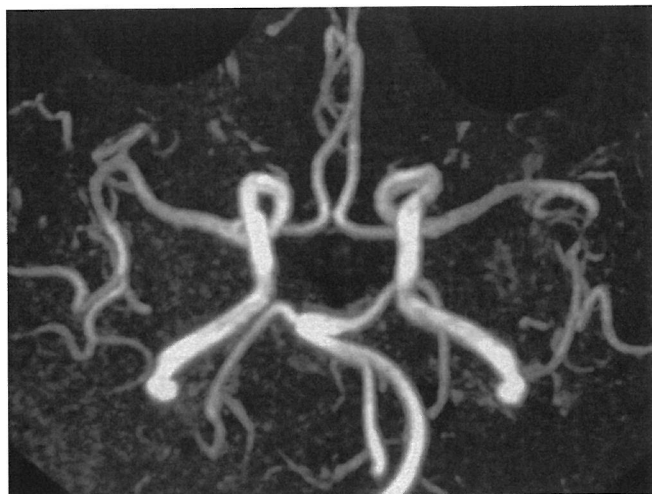


図2 alteplase 投与後



No. 135

外科 (No. 18)

## 最近のトピックス

### 腹腔鏡下幽門側胃切除



外科

吉田 直矢

#### 胃癌に対する術式の変遷

胃癌に対する標準術式の一つである幽門側胃切除は、長年にわたり開腹で行われていました。1991年にリンパ節転移の可能性がある早期胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除という術式が開発され、より小さなキズ（鉗子用の1 cmほどのキズ4つと、手の平の横幅ほどの大きさのキズ一つ）で幽門側胃切除を行うことが可能となりました。この術式ではリンパ節郭清が甘くなり再発が多くなるのではないかと危惧されましたが、その後約10年でこの術式でも根治性や予後に差がないことが明らかとなりました。また小さなキズで手術を行うことにより術後の疼痛が軽減し、歩行までの日数が短縮することや、合併症が減ること、在院日数が短縮することなどのメリットが報告されています。この術式は2002年より社会保険診療報酬に収載され、胃癌の治療法としての立場が確立されています。

最近になり完全に腹腔鏡下で幽門側胃切除を行う術式が開発され、当院でも2006年1月よりこの手術を行っています。キズはさらに小さくなりました(図1)。術後経過も非常に早くなり、術後3日目の朝に透視を行い流動食を開始しています。7日目には白ごはんとなり退院が可能ですが(なかなか帰れません)。開腹せずに手術を行いますのでどうやって吻合を行うかが問題ですが、デルタ吻合というテクニックを用いて腹腔内での吻合を行っています。

また病変を取り出す際には臍の傷を約1 cmずつY字に切開して、キズが目立たないように工夫しています。

#### 腹腔鏡下幽門側胃切除の適応病変

当院での現在の適応は、従来の幽門側胃切除で行える病変のうち、深達度が粘膜下層までと思われるものとしております。基本的には分化型の癌を対象としておりますが、粘膜までの深達度で大きさが3 cm以下であれば、低分化癌であっても2群リンパ節転移は0%であり、手術の対象としています。リンパ節の2群郭清は開腹手術と同等に行えますので、将来的には開腹で2群郭清を行っている全ての病変に適応の拡大が可能と考えています。ご紹介いただきました患者様には、この手術が可能かどうか診断をして、十分な説明を行うように心がけております。

#### 最後に

当院では食道癌、肺癌、縦隔腫瘍、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道系良性疾患に積極的に鏡視下手術を行っています。総じて鏡視下手術はコスメティックな点に優れること、疼痛が少ないこと、回復が早いことというメリットがあります。

ご紹介いただく先生方におかれましては、今後ともご高配のほど、宜しく願い申し上げます。



図1：腹腔鏡下幽門胃切除術創

### ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

# オーダーリング導入後3ヶ月目をむかえて



形成外科医長

大島 秀男

今年2月より運用開始となったオーダーリングシステム委員会が立ち上がり、システムの概要と運用を取り決め、端末などの整備が整うまで1年足らずという短い期間ではありましたが、3回のリハーサル、各部門ごとの操作訓練を経て無事運用にこぎつけられました。これも皆様の熱心なご指導によるものと厚く御礼申し上げます。

オーダーリングシステムの運用におきましては医療職、事務職はもとより患者様にも従来とは違う手続きを踏んで頂くことになりましたので、ここで改めて患者様の受診手続きを簡単にお知らせします。

まず受付の仕方ですが、初めての方は窓口で、2回目からは再診受付機で受付番号票を受け取って頂きます。次に、掛かる診療科に行ってください。そこで診察券を出したうえでお待ち頂き、順番になりますとお名前ではなく受付番号で呼ばれます。従来、各科の受付でお名前を書いて頂き、診察医がお



オーダーリングによる診療科受付の風景

名前を呼んでおりましたが、個人情報保護の観点から受付番号で呼ばせて頂いております。患者様が検査に行かれた場合もこの受付番号でお呼びしますので、受付番号票を常に持って頂くようお願いしております。診療行為自体に変わりはありませんが、従来、伝票などの紙ベースのみで取り扱っていた診察予約や処方、検査を始めとする各種オーダーが、コンピューター端末で取り扱われます。診療予約は30分単位の時間予約とし、患者様の待ち時間を短縮するように致しております。予約を要する検査の日時も患者様の都合を伺いながら、画面上でいくつかの候補の日時をあげ確認することの出来るより円滑な予約システムになりました。

このような利便性はコンピューターネットワークの構築によって成り立っておりますが、各部門で電子化された大量の医療情報が瞬時に行き交うようになり、その情報の取り扱いにおいてはこれまで以上の嚴重な注意が必要となります。

今年10月には電子カルテの導入も予定されておりますが、個人情報の保護に配慮し、システムのIT化を医療サービスの向上、地域医療連携の強化に生かしていきたいと存じます。

今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新しい再診受付機

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

## 新任職員紹介 (1)



整形外科

まえ だ さとし  
前 田 智

4月より整形外科に勤務しております前田智と申します。

平成4年熊本大学医学部を卒業後、熊本大学整形外科に入局、同付属病院にて研修後、菊水町立病院、熊本労災病院、大学院を経て平成11年4月より本年3月まで再び熊本大学整形外科に勤務しておりました。大

学では肩関節外科および人工股関節置換を担当してまいりました。同分野にて微力ながら貢献していければと考えておりますが、県内トップクラスの救急患者数を抱える当院では、外傷性疾患とりわけ高齢者の大腿骨頸部骨折の症例数が非常に多く（ほぼ毎日複数例の入院がっている現状で正直驚いています）、こちらに赴任して以来同疾患の対応に追われる毎日となっております。少しずつ落ち着いてきましたら徐々に本領を発揮していきたいと思っております。

まだまだ未熟な面も多々あるとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



整形外科

たて いし よし かず  
立 石 慶 和

4月より整形外科に勤務しております立石慶和と申します。

平成13年に熊本大学医学部を卒業し、同年熊本大学整形外科に入局しました。

平成14年より4年間八代総合病院で勤務し、この度、当医療センターでお世話になることとなりました。これまでは救急車や多発外傷は比較的少ない環境でしたので、勤務して1ヶ月になります当医療センターでの救急患者数や手術症例数の多さに身が引き締まる思いしております。

まだまだ未熟者で皆様には何かとご迷惑をお掛けすると思っておりますが、少しでも患者様のお役に立てるよう努力していく覚悟しておりますので、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。



形成外科

たか だ りょう や  
高 田 了 也

4月より形成外科に勤務しております高田了也です。川崎市の聖マリアナ医科大学を卒業し、同病院で2年間の研修後、聖マリアナ医科大学大学院形成外科学講座に入学しました。研究の傍ら臨床にも従事し、今年3月に「各種美白剤刺激がヒト培養メラノサイトのメラニン産生および培養表皮角化細胞に及ぼす影響」と

いうテーマで博士号を取得しました。世間で話題になっているアンチエイジングや美白についてです。

当院では、形成外科が開設されたばかりで実際どのような医療をしているのかご不明な点が多々あるかと思っております。今後、少しでも患者様にはもちろんのこと、諸先生方にも形成外科学の必要性、発展性をご理解して頂けるよう楽しく笑顔で頑張っていきたいと思っております。

色々ご迷惑をお掛けするかとは思いますが、宜しくお願い致します。

より美しくなりたい方・今のまま美しくいたい方、興味がありましたらお気軽に声を掛けて下さい。



産婦人科

しば た さぶ ろう  
柴 田 三 郎

4月より産婦人科に勤務しております柴田三郎です。

昭和54年に熊本大学を卒業し、熊本中央病院10年、水俣総合医療センター3年、熊本市立産院に3年勤務し、この度大学医局の事情にて当院へ転勤となりました。

元々は癌治療及び手術が中心でしたが、この3年間は周産期のみで、手術も殆どやっておらず、また病院の廃止問題にて患者数も減少し、のんびりとやっておりました。

当院に勤務してまだ2週間足らずですが、あまりの忙しさに戸惑うばかりです。しかし、幸いにも先生方及びスタッフの皆様が非常に優しく、また嫌な顔もせず教えて下さり、大変有難く思っております。

何とか早く皆様のお役に立つことが出来るようになるまで、一生懸命頑張りたいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。

## 新任職員紹介 (2)



### 脳神経センター

#### 脳神経外科

よし きみ お  
吉 里 公 夫

4月より脳神経外科に勤務しております吉里公夫です。旭化成の本拠地の宮崎県延岡市にあります県立延岡病院より参りました。一応、脳腫瘍をサブスペシャリティとしていましたが、脳神経外科自体が救急科で、

延岡病院での医師数不足もあって、現在は何でも屋と化しており、救急外来での小児の血管確保から脳神経系の麻酔までできるようになりました。

大学院入学時から数えると10年以上も熊本の臨床から離れており、当時の国立病院から考えるとこんなに忙しい病院になるとは想像出来ませんでした。熊本地区の病診連携などについても全く白紙の状態でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、脳神経外科は年配の医者ばかりになってフットワークが落ちたと言われないように頑張りますのでよろしくお願い致します。



### 心臓血管センター

#### 循環器科

ふく しま りゅういちろう  
福 嶋 隆一郎

この4月より循環器科医として赴任致しました福嶋です。早いもので医者になって今年でもう5年目になりました。研修医2年目にはこちらの病院で研修を受け、主に救急部、消化器科、循環器科で多くの重症患者の診療を経験しました。その後、熊本赤十字病院、大牟田天領病院を経て再び

こちらでお世話になることになり、大変嬉しく思っています。

国立病院機構熊本医療センターは、大学での研修を終え、臨床医としての第一歩を踏み出した病院でもあり、特別の思い出があります。当時、ここで身につけた知識や手技が今でも毎日の診療の基礎となっており、ご指導頂いた先生方、スタッフの皆様にはすごく感謝しています。循環器科医としてその後身につけた知識や手技にもより一層磨きを掛けるようこれからも励む所存です。

日々の診療が少しでも恩返しになるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

### 画像診断治療センター

#### 放射線科

あさ お ち あき  
浅 尾 千 秋

この4月より放射線科に勤務しております浅尾千秋と申します。

平成2年に熊本大学医学部を卒業し、同年放射線科に入局の後は、放射線科医としていろんな病院で仕事をしてきました。

こちらに赴任する前の約4年間は内科、外科、小児科を中心とする熊本市医師会病院であったため、この度全診療科のある国立病院機構熊本医療センターに勤務することになり、様々な領域の豊富な症例を経験できると期待すると同時に、少しでも臨床の場で役に立つ画像診断が行えるように勉強していかなければと身の引き締まる思いでいます。

各診療科の先生方には何かとご迷惑をお掛けするかと存じますが、ご指導、ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。



### 消化器病センター

#### 消化器科

わた なべ たけ ひさ  
渡 邊 丈 久

4月より消化器科に勤務しております渡邊丈久と申します。

平成14年に熊本大学医学部卒業後、熊本大学第

一内科に入局しました。病棟での研修後、熊本大学付属病院集中治療部、済生会熊本病院、熊本労災病院、玉名地域保健医療センターと勤務し、この度国立病院機構熊本医療センターにお世話になることとなりました。

未熟者であり不慣れなが面多く、先生方及び院内スタッフの方には何かと御迷惑をおかけするかもしれませんが、ご指導のほど宜しくお願い致します。

## 新任職員紹介 (3)



外科  
佐藤伸隆

4月より外科に勤務することになりました佐藤伸隆と申します。

平成15年5月に熊本大学医学部第二外科に入局し、大

学での研修の後、平成16年7月より1年9ヶ月の間、荒尾市民病院外科に勤務していました。4年目に入りました。

荒尾市民病院では様々な症例を経験させて頂き勉強させて頂いたと感じていますが、医師としてはまだ経験不足であり、国立病院機構熊本医療センターではさらに多くの症例を経験し、勉強できたらと考えています。

まだまだ未熟者で先生方には何かとご迷惑をお掛けするかもしれませんが、ご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。

## 新臨床研修2年間の カリキュラムを終えて



専修医  
楠本優

新臨床研修制度のもと、内科、麻酔科、救命救急、外科、産婦人科、精神科、小児科の診療に従事しました。残る必須事項に院外での「地域医療研修」があります。熊本市の松本外科医院〔松本孝一院長〕のご高配のもと、昨年10月の1か月間、診療に従事する機会を与えて頂きました。

松本外科医院では一般外科診療および下肢静脈瘤に対する治療を行っておられます。午前は外来診察・検査・病棟処置などに従事しました。外来患者様の診察・検査の結果、当院へ紹介すべきと判断された症例では

患者様とともに救急車に乗り、普段と逆の立場で当院救命救急センターに現れたため、凶らずも急患対応の先生方を驚かせてしまうこともありました。午後は下肢静脈瘤に対する静脈抜去術につかせて頂きました。

松本先生には患部の解剖・術中管理・器具の扱い方・手技など多岐に渡り、優しく厳しくご指導頂きました。先生は当院へ共同指導に来られた際には今でも声を掛けられ、励みになります。地域医療研修を通じて貴重なご縁と臨床経験をられました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

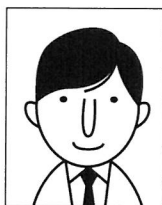
最後に、今春より引き続き小児科専修医としての後期研修を行うこととなりました。この2年間をめまぐるしく駆け抜けてきて、自分は何が出来ようになったのだろうかと思いつつ、専門性を決め再びスタートをきることとなります。院内外の先生方を始め、当院のスタッフの皆様からまた一つ一つ教わりながら加速していきたいと思えます。今後ともご指導ご助言の程、どうぞよろしくお願い致します。

## 国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係(TEL 096-353-6501 内線390)までお申し込み下さいますようお願い致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口(時間内)又は、時間外受付(時間外)にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

### 開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会  
熊本太郎

平成18年1月1日交付  
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。



# 研修のご案内

## 第88回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成18年5月15日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例提示「心不全患者へのβ遮断薬の導入ークリティカルパスの有用性の検討ー」  
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 宮尾 雄治
4. ミニレクチャー「腎生検の適応と禁忌」  
国立病院機構熊本医療センター腎センター腎臓内科医長 富田 正郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第57回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定〕

日時▶平成18年5月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. グリメピリド3mg内服から短期強化インスリン療法を経て薬物療法不要となった2型糖尿病の1例  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター代謝内科  
児玉章子、市原ゆかり、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三
2. 糖尿病合併慢性心不全患者へのβ遮断薬導入後の血糖コントロールは大丈夫か？  
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科  
宮尾雄治、福嶋隆一郎、田中朋子、村上和憲、藤本和輝
3. DPC導入による疾患対応の変化ー糖尿病に関して考えるー  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター代謝内科  
小堀祥三、市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線796

## 第76回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成18年5月24日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 症例検討「急性腹症」

国立病院機構熊本医療センター外科医長 山下 眞一

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

## 第202回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成18年5月27日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「動脈疾患の診断と治療」

座長 熊本市医師会 松本 孝一

1. 末梢動脈疾患の診断と治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝
2. 胸部腹部大動脈瘤の診断と治療  
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター心臓血管外科医長 毛井 純一
3. 器材供覧 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

# 平成18年 研修日程表 5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修ホール	会議室	その他
1日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
2日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
8日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
9日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
10日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
11日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
12日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
13日(土)	14:00~16:00 第189回 滅菌消毒法講座《会員制》 「洗浄の基礎」 健康保険八代総合病院器材部第一種滅菌技師 藤井 裕		10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校
15日(月)	19:00~20:30 第88回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
16日(火)	18:00~19:00 第30回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
17日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
18日(木)	19:00~20:45 第57回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
19日(金)		18:00~21:00 熊本地区核医学技術懇話会	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
20日(土)	13:30~16:30 第102回 看護卒後研修《会費制》 「院内感染防止Ⅰ-滅菌と消毒-」 山口大学医学部附属病院薬剤部助教授 尾家 重治		
22日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
23日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
24日(水)	18:30~20:00 第76回 救急症例検討会 「急性腹症」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
25日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
26日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
27日(土)	15:00~18:00 第202回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本市医師会 松本 孝一 「動脈疾患の診断と治療」 1. 末梢動脈疾患の診断と治療 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝 2. 胸部腹部大動脈瘤の診断と治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科医長 毛井 純一 3. 器材供覧 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝		
29日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
30日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
31日(水)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 学校 看護学校

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)